

内科

腸管ホルモン「GLP-1」について

消化管から出るホルモンの中で、小腸から血液中に分泌されるグルカゴン様ペプチド-1（GLP-1）というホルモンは、血糖値の調整の役割を担っています。食事をして血糖値が上がると、小腸のL細胞から分泌されるGLP-1が膵臓（すいぞう）に働きかけてインシュリンの分泌を促し、血糖値を下げます。た

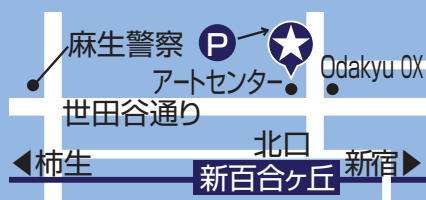
だし、血中のDPP-4という酵素により短時間で分解されてしまうため、GLP-1そのものを内服薬として高血糖の治療に使うことはできません。その構造を変化させて酵素の影響を受けにくくすることによって、GLP-1の作用を長く保つことができるようになったものが、GLP-1受容体作動薬です。注射

と内服薬があり、単独では低血糖を起しにくいことも、この薬の良い点です。また、DPP-4の働きを阻害することでGLP-1の効果を高めて血糖値を下げる薬剤も、多数普及してきています。



■ 内科
新百合山手福本内科

福本 学



☎044-955-8877
麻生区万福寺6-7-2
メディカルモリノビル2F
<http://www.fukumotonaika.jp/>